

令和6年度 日本語使用等状況調査結果（概要版）

調査の概要

- ◆調査の目的

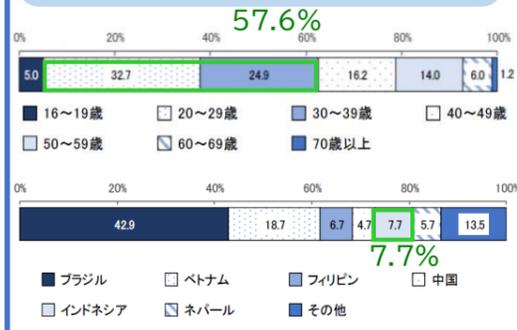
日本語の使用状況や日本語に対する意識等を調査し、多文化共生施策推進の基礎資料とする。
- ◆調査対象・回収状況

市内在住の16歳以上の外国籍の方
1,500人
回答数401人(回答率26.7%)
※調査票は、ポルトガル語・ベトナム語・中国語・英語・インドネシア語・やさしい日本語を国籍に合わせて配布
- ◆調査期間

令和6年7月12日～7月31日(20日間)
- ◆回答方法

郵送による配布・回収、またはWEB回答

① 回答者の年齢、国籍(n=401)



- ・年齢は、20～39歳が約5割を占める。
- ・国籍は、ブラジルが約4割を占める。人口第3位のフィリピンを抜いてインドネシアの回答者(7.7%)が3番目に多い。

② 回答者の在留資格(n=401)



- ・「永住者」と「定住者」が約5割を占める。

③ 回答者の出生地(n=401)

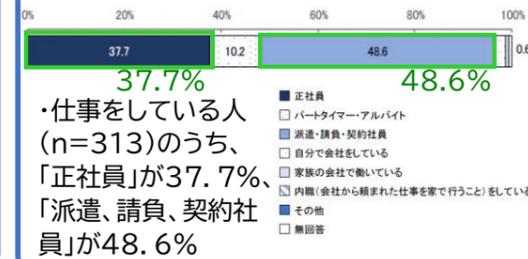


- ・日本以外の国で生まれた人は、93.5%
- ・16～19歳では、日本で生まれた人は60%

④ 仕事をしているか。または学校についているか。(n=401)



- ・仕事をしている人は、78.1%



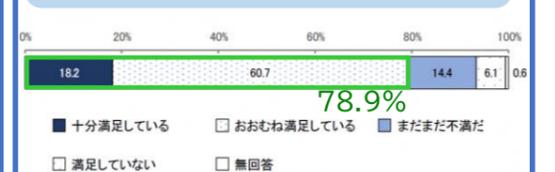
- ・仕事をしている人(n=313)のうち、「正社員」が37.7%、「派遣、請負、契約社員」が48.6%

⑤ 今の仕事は、あなたの希望にあった仕事か。(④で仕事をしている人)(n=313)



- ・希望にあった仕事である 72.8%

⑥ 今の仕事に満足しているか。(n=313)



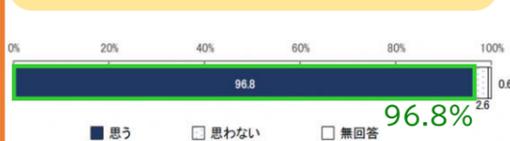
- ・仕事に満足している(十分・おおむね) 78.9%

⑦ 日本語が上達すれば、満足する仕事に就くことができると思うか。(n=401)



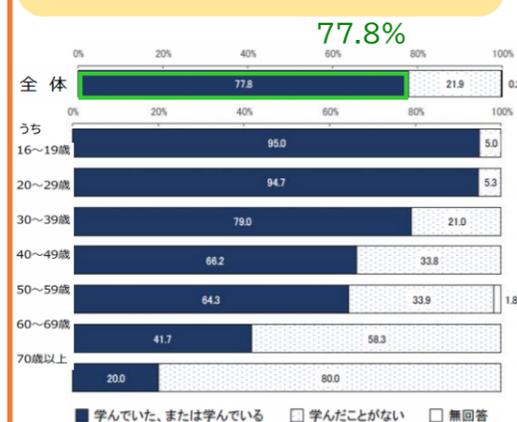
- ・思う 73.6%

⑧ これからも日本で働きたいと思うか。(n=401)



- ・思う 96.8%

⑨ 日本語を学んだことがあるか。(n=401)



- ・学んでいた、学んだことがある 77.8%
- ・年齢が上がるほど学んでいる割合は減少。

⑩ なぜ日本語を学んでいるのか。(⑨で学んだことがある人)(n=312)

調査項目	必要で生活からしていきたくため	日本での生活に必要なため	仕事で必要だから	たのしみや興味のため	通学や勉強のため	日本の文化や生活を知るため	日本の生活や文化を学ぶため	他人から学ぶため	無回答
全体	94.7	36.8	31.6	31.6	36.8	5.3	5.3	0.0	0.0
16～19歳	19	94.7	36.8	31.6	36.8	5.3	5.3	0.0	0.0
20～29歳	124	75.0	28.2	54.0	29.8	20.2	9.7	1.6	0.0
30～39歳	79	91.1	32.9	59.5	41.8	10.1	12.7	10.1	6.3
40～49歳	43	93.0	48.8	37.2	30.2	11.6	0.0	2.3	7.0
50～59歳	36	86.1	44.4	44.4	27.8	13.9	0.0	8.3	0.0
60～69歳	10	50.0	30.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
70歳以上	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

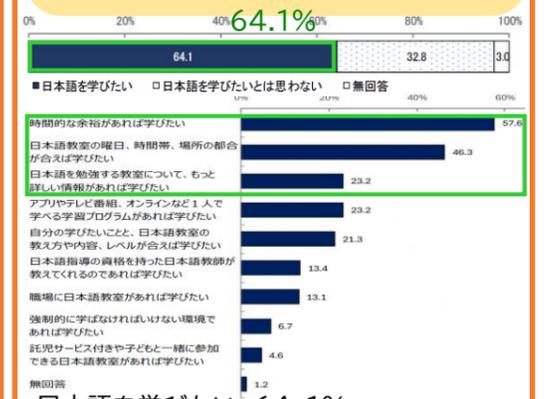
- ・どの年代も「日本で生活をしていくために必要だから」が一番目に多いが、20～39歳、60～69歳では「仕事で必要だから」が、40～59歳では「日本人と付き合いを広げるため」が2番目に多い。

⑪ なぜ日本語を学んでいないのか。(⑨で学んだことがない人)(n=198)



- ・「仕事のため、時間的余裕がないから」が最も多く、次いで、「もう十分に日本語ができるから」、「日本語教室の時間が合わないから」となっている。

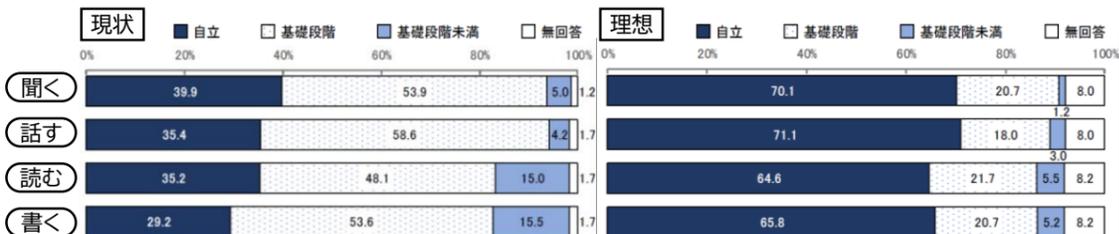
⑫ 日本語を学びたいか。またどのような環境があれば日本語を学びたいか。(日本語を学んでいる、学びたい人)(n=328)



- ・日本語を学びたい 64.1%
- ・時間に余裕がなくて学べない人が多い。
- ・日本語教室の情報を求めている人が多い。

⑬ 日本語レベルの現状と理想(n=401)

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能別の自己評価を、「日本語教育の参照枠」(2021年文化庁)のレベルを参考に「自立した言語使用者」、「基礎段階の言語使用者」、「基礎段階未満」の3つに分類した。



- ・「現状」においては、聞く>話す>読む>書くの順に日本語レベルが低下している。
- ・「理想」においては、全てにおいて、国が目指すレベルとしている「自立した言語使用者」を理想としており、特に「話す」「聞く」においては、約7割がより高いレベルを理想としている。

【参考】「日本語教育の参照枠」(抜粋)

自立した言語使用者	基礎段階の言語使用者	基礎段階未満
自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作成することができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常の範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。

※「基礎段階未満」は、「基礎段階の言語使用者」未満のレベルとした。

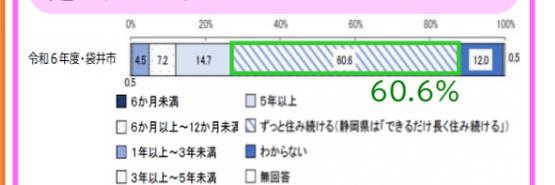
日本在住歴5年以上の外国人市民の情報を得る力:「聞く」と「読む」について

単位(%)	聞く			読む		
レベル	自立	基礎段階	基礎段階未満	自立	基礎段階	基礎段階未満
今	19.6	71.2	8.5	25.5	59.5	15.0
理想	52.6	42.9	2.8	41.3	40.9	15.0
5年未満	62.7	28.8	0.7	56.9	27.5	4.6
5年以上	74.5	15.8	1.6	69.6	17.8	6.1

5年未満(n=153)※無回答者含む
5年以上(n=247)※無回答者含む

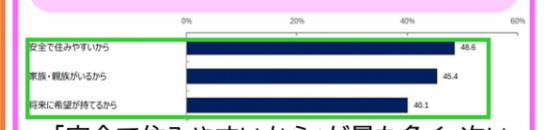
- 日本在住歴5年以上の人であっても、「自立した言語使用者」レベル(自己評価)は、「聞く」は52.6%、「読む」は41.3%にとどまる。
- また、「自立した言語使用者」が理想のレベルだと回答した人は、「聞く」は74.5%、「読む」は69.6%と、8割を下回る。

⑭ これから日本でのどのくらい生活する予定か(n=401)



- ・「日本にずっと住み続ける」60.6%

⑮ これからも日本で生活する理由は何か(n=401)



- ・「安全で住みやすいから」が最も多く、次いで「家族・親族がいるから」、「将来に希望が持てるから」となっている。

今後の方向性 多くの外国人が今後も日本に住みたいと考えている。しかし、長く住んでいる外国人市民であっても、「自立した言語使用者」レベルの日本語の習得ができていない人は5割程度にとどまっている。生活や就労など社会とのつながりに欠かせないコミュニケーションを円滑に進められるよう、日常生活における日本語の必要性を感じられる環境づくりが必要である。